

1年生学年だよ

平成 27 (2015) 年 4 月 23 日

第 9 号

吹田市立第二中学校第一学年

マーフィーの法則

「机から落とした食パンは、バターをぬった面を下にして着地する。」

1990年代前半に、大人気となった「マーフィーの法則」という本には、なぜかという理由は分からないのだけれども、みんながうなずいてしまう日常の経験がたくさん紹介されています。現代の言葉でいうと、いわゆる「あるある」でしょうか。他にも

「探していないものは、必ず見つかる。」

「天気予報の雨の予報は、かさを持たなかった日に限って的中する。」

「急いでいるときに限って、何かと赤信号になる。」

「機械がこわれたことを見せようとする、動き出す。」

「机の上の飲み物は、いつも宿題に向かってこぼれる。」

など、誰もが「あっ、分かる！分かる！」思わず手をたたいて笑いたくなる、面白い人生の“経験談”のようなものが、たくさん紹介されています。

しかし、この本にはそういうユーモラスな「あるある」ばかりが書かれているのではなく、実に深い教訓も紹介されています。

「起こる可能性のあるものは、いつか実際に起こる。」

「押してはいけないボタンがあるなら、必ず誰かが押してしまう。」

など、「う～ん」と深く意味を考えてしまう内容ですね。

その中に、

「一度認めた例外は、次からは当然の権利になる。」

というものがあります。



入学してから1ヶ月が過ぎようとしています。授業、班活動、掃除、クラブ、様々な場面で「中学生として、がんばろう！」という意気込みが伝わってきます。素晴らしいスタートだと思います。

しかし、クラスの中に、ちらほらですが、「これくらいなら・・・」と気を抜いた行動が見られるようになってきてはいませんか？ネクタイやリボンはきちんとつけていますか？宿題には毎日取り組んでいますか？授業中おしゃべりをしていませんか？ノートの字が雑になってきていませんか？下足箱の区別は？ろうかであれば、走り回ってあぶなくない？人を傷つけるようなからかいは？

「これくらいなら・・・」「一回だけなら・・・」と自分に甘くなってしまうと、次にそれが平気になってしまう。それが進んでいくと「これくらいええやん。なんであかんの？」となってしまいます。

まさに、「一度認めた例外は、次からは当然の権利になる。」です。

間もなくゴールデンウィーク（GW）です。GWは、スタートダッシュをしてきた疲れをとる1つの区切りです。ゆっくり体と心を休めて、仕切り直しをする。

ですが、GWは、中学生が大きく生活をくずしてしまうきっかけになってしまう場合があります。大切なことは、「これくらいなら」「一回だけなら」という、自分の中の例外を作らないことです。

もう一度、気をひきしめましょう！

